

もりおか歴史文化館だより 8

Rekibunkan News Vol.

(2016.12.15 発行)

- ◆館長だより「ふたば」vol.7
- ◆もりおか歴史文化館 開館5周年を迎えて:ポスターから振り返る5年間の歩み
- ◆学芸員トピックス:古文書を読む「南部信直宛豊臣秀吉朱印状」
- ◆歴史館スタッフ伝言板 ~平成28年度ボランティア研修旅行~
- ◆インフォメーション



◆増補行程記 清水秋全／寛延4年(1751)

江戸から盛岡までの奥州街道を色鮮やかに描いた乾・坤2冊からなる道中図。8代盛岡藩主 南部利視の命をうけ、藩士 清水秋全が描いて献上したもの。道々の風景を写實的に描写するとともに、各地の名所・名物や伝説、古歌なども記されている。参勤交代のルートで描かれているため、各頁で方角は一致していない。起点ともなる盛岡城下町についても詳細に描かれており、江戸時代の城下町の様子を視覚的に認識できる貴重な資料である。

掲載場面は新山河岸に架けられた「舟橋(通称:新山舟橋)」及び仙北町界隈で、この舟橋は明治6年(1873)に明治橋ができるまで、城下への入り口として機能し、盛岡城下町を代表する風景のひとつであった。



館長だより ふたば れきぶんかん vol.7

— 5周年の御礼をこめて —

もりおか歴史文化館(通称:歴文館)は、あの思まわしい大災害のあった2011年の7月に開館しました。あれからもうまる5年が過ぎ6年目に入っています。過ぎてみればあつという間でしたがあの3・11のことは忘れられません。

実はあの日の当日午後5時から、館長としてはじめて市の教育委員会や指定管理の代表者の皆様と顔合わせをすることになっていたのです。別件の仕事の打ち合わせが終わってホテルを出たのは午後2時半ごろでした。車で事務所に向かって間もなく道路わきの電信柱が揺れ電線がブランコのように揺れているのに気づきました。慌てて車を止めラジオをつけました。それが午後2時46分だったのです。すべての連絡方法が断たれ、顔合わせどころではない事態に広がるのは暗雲のみでした。

それから何日後かに、館は予定通り開館するので改めて顔合わせをするという知らせが入りました。三陸に大災害が起きた今だからこそ、被害の少なかった内陸から元気を届けるのだ。ということで開館が決定したのです。開館当日7月1日は青空が広がり太陽がまぶしく輝く晴れやかな日でした。あれから5年、たくさんの人々に支えられ大きな事故もなく館は運営を続けております。

猛反対を受けながら切り倒したヒマラヤシーダではありましたが、館の前庭は明るく開けて種々数々のイベントが催されるようになりました。勿論、災害支援で沿岸各地からの出店もあり、それぞれに繁盛し活気を取り戻そうとしています。市街中心地ということもあってか人の集まりがよく、街の活性化にも寄与しているのではないかと自負しています。

2016年6月30日締め総入館者数は1,138,844人。なんとたくさんのお客様でしょう。お客様あつての施設ですから、一人でも多くと念じながらご案内してまいりましたが、予想を超えておいでいただいたお客様に改めて心から御礼を申し上げます。

ありがとうございます。

そしてまた、講座やイベントでご指導いただいている各界の著名な先生方、ご出演のタレントのみなさん、運営にご協力下さっているボランティアのみなさん、警備や清掃担当のみなさんお一人お一人に頭を下げて回りたいと思います。

とはいえ、まだまだ知名度が低いことも実感しています。テレビリポーターの紹介で「もりおか歴史文化会館」とか「もりおか歴史文化博物館」と言われるようではいけません。特に盛岡市民の皆様には「歴文館」としてもっと身近に親しんでいただけるようにならなければいけないと考えております。

合言葉は、雨が降ったら歴文館
雪が降っても歴文館
カンカン照りでも歴文館

これからも末永く「もりおか歴史文化館」をご利用いただけますようお願い申し上げます。
お待ちしております。

もりおか歴史文化館館長

畑中美耶子

歴史館プチ情報

もりおか歴史文化館の屋根の上に棟飾りがついているのはご存知でしょうか？

これは岩手県出身の彫刻家 ふな こしやすたけ 舟越保武氏が制作した「ふたば」という作品で、大空に双葉を広げたその姿は、伸びゆく岩手の文化を表しています。

館長だよりのタイトルである「ふたば」もここからいただいております。

戦後日本の現代建築を牽引した建築家 まくだけ きよのり 菊竹清訓氏が岩手山をイメージして作った屋根の上に、舟越保武氏の作品の「ふたば」が芽吹く。2人の巨匠のコラボレーションを、ぜひご覧ください。



◆もりおか歴史文化館 開館5周年を迎えて ～ポスターから振り返る5年間の歩み～



◀開館時のポスター

南部家の至宝▶

**2011年7月1日
開館!**

▼オープニングセレモニー



▼来館者5万人達成!(2011年9月3日)



2011
/ START!!



▼菊竹清訓の世界展



▼新収蔵資料展 2011



▲来館者10万人達成!
(2011年10月29日)



昭和 Little Townの世界展▲



2012



▲安倍氏伝展



▲お菓子で笑顔に展

▼来館者30万人達成!(2012年8月26日)



▼絵葉書にみる
明治・大正・昭和展



2013

▼描かれた盛岡藩領展



▲館蔵人形展



▲まねびて学べ展

▼来館者50万人達成!!(2013年8月9日)



▲盛岡文士劇展



▲南部火消の世界展



go to the next stage!! →

2017



▲南部鉄器展



▲開館5周年(2016年7月1日)



▲盛岡南部家の生き方展



▲盛岡の指定文化財展

2016

▼なつかしの盛岡展

▼旅の枝折展



▲来館者100万人達成!
(2015年9月27日)



▼花づくし展



2015



2014

▼馬のいた風景展



▲盛岡城展

▼判じ絵展



▲来館者70万人達成!(2014年8月3日)



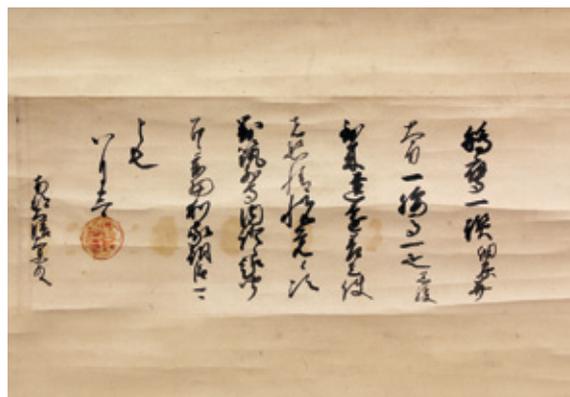
イラスト:あねがわ

「南部信直宛豊臣秀吉朱印状」(天正14年・1586か)8月12日付

もりおか歴史文化館には、豊臣秀吉が発給した朱印状が全部で8通(軍勢に対する禁制も含む)収蔵されています。今回はそのうちの1通をご紹介します。盛岡南部家の歴史の一端を紐解いてみたいと思います。朱印状とは戦国時代から江戸時代にかけて、時の権力者(各地域の戦国大名・織田信長・豊臣秀吉・江戸幕府徳川將軍など)が発給した文書の1つで、花押(自著のサイン)の代わりに朱色の印判が捺されているものです。この文書の日付の下に捺された朱印、印文は不明ながら天下統一を成し遂げた豊臣秀吉のもので、同じ朱印が捺された文書は同時期に全国各地に発給されています。

文書の前半部分では豊臣秀吉が、南部大膳大夫(南部信直のこと)から贈られた鷹・太刀・馬に礼を述べており、南部家が地域の産物を駆使した贈り物をしながら、いかに天下人に対して心を砕いていたのかをうかがい知ることができます。しかしこの文書のポイントは後半の「対筑前守内証之趣聞召候」の部分にあります。これは加賀国(石川県南部)金沢城の「筑前守(=前田利家)」に対して、南部信直が「内証之趣(=本心や内々の話)」を伝え、この内容を秀吉も利家から確かに伝え聞いたことが確認されています。あえて朱印状で伝える必要があった、この「内証之趣」とは具体的に、どのような信直の本心だったのでしょうか。年号も記されていないこの文書だけでは残念ながらわかりませんが、他の史料情報を合わせて時代背景や歴史の流れを整理することで見えてくることがあります。

まず、前田利家が「筑前守」と呼ばれていることに注目すると、利家が筑前守(もと豊臣秀吉が名乗っていた官職)を拝領したのが、天正14年(1586)の3月であるためこの文書が出されたのは、それ以降ということになります。またこの文書と同時に南部信直が受け取った前田利家書状が天正15年(1587)6月以前と考えられることなどから、天正14年のものであることがわかります。天正14年というと全国的には秀吉が太政大臣や「豊臣」姓を手に入れ、天下統一事業を加速させている時期にあたります。一方の信直は天正10年(1582)に養父の南部晴政とその後継者晴継が、相次いで死没したことによる家督相続問題が起こる中で、三戸南部家を継いだばかりでした。戦国大名南部家としては依然周囲に勢力を争う大名や領主がおり、また南部家内部にも家督相続問題以来、信直に反発する勢力が燦っていました。いまだ実力本位の戦国時代が終わらない時期に、家督継承直後の不安定な立場にいた信直は、天下統一に邁進する秀吉のも



鵠・鷹一聯(綱懸)并
太刀一腰・馬一疋(黒駿)
到来、遼遠差上使
者懇情悦覚候、次
対筑前守内証之趣聞
召候、委細利家朝臣可
申候也、
八月十二日 (朱印)
南部大膳大夫とのへ

とに贈り物をしながら、この「天下人」と積極的に結びつくことを選んだと考えられます。この本心を信直は、まず豊臣政権に大きな影響力をもっていた利家を頼る形で事前に相談し、これが秀吉に取り次がれ無事に受け入れてもらえたことを証明したものが、この文書ということになります。

この後、南部家は豊臣政権に組み込まれますが、これにより正式に領地を安堵され、新たな拠点としての盛岡城・城下町の建設許可を受けることになります。南部家に伝来した豊臣秀吉朱印状の中では、もっとも古い年代のものになりますが、南部家が豊臣政権に接近していく端緒、あるいは盛岡の歴史の始まりを示した南部家としては画期的な文書で、ここから新しい盛岡南部家の歴史が動き出したと考えると、感慨深いものがあります。

◆歴史館スタッフ伝言板：平成28年度ボランティア研修旅行を終えて

平成28年10月18日に開催した第4回ボランティア研修旅行(研修先：青森県南部町・三戸町、岩手県二戸市内の南部氏に関わる史跡及び観光地)について、参加したボランティアの方からのレポートをお届けします。

ボランティア研修旅行には大きな興味をもって、毎回参加している。今回の研修地は、近世大名盛岡南部氏が基礎をなした3ヶ所の城址であることも期待が大きかったし、かつ充足感があった。

奥州北部の覇権を握り、「三日月が丸くなるまで南部領」ともいわれたのはいつの時代なのか、23代南部安信の代なのかでは等々を想像し、思いを馳せる楽しみもあった。

研修先ではそれぞれ案内をしてくれた現地の職員の皆様の情熱と見識の深さに魅了され、お客様を迎えるボランティアとして学ぶべき点であり、とても好感が持てた。

また、訪れた先々は代々の当主が激動の世を生き抜き、盛岡を拠点とするまでの足跡があり、その辿った道のりに思いを馳せ、歴史の重みを直に感じる事ができた。「ゆかりの地」には今につながる当時を知る手がかりがあり、新しい発見がある。書籍にのみよる自分のつたない知識に、さらに知的好奇心が加わり、次の活動の糧になっていくだろうことが嬉しい。

なにより同じボランティア同士が一緒に貸切バスで移動し研修できることが、とても心地よく楽しいことである。

もりおか歴史文化館ボランティア 照井時彦

秋晴れの一日、南部家が盛岡に居城を移す以前の拠点だった地域の史跡を見学した。自分が皆様方にご案内・ご説明をしている盛岡城を中心としたものと異なり、夢の世界に迷い込んだような思いがする史跡ばかりだった。

青森県南部町所在の南部利康霊屋。桃山様式の華麗な建造物の「猿」の丸彫りには、時空を超えて微笑みを感じさせられた。次は発掘調査中の国指定史跡の聖寿寺館跡。15世紀末～16世紀前半代の様々な中国産の陶磁器が出土しており、一部は有力大名しか持ちえない「威信財」と考えられるとの説明を受けた。三戸町立歴史民俗資料館、そして岩手県二戸市の九戸城(福岡城)址でも職員やガイドの方の説明から、ふるさとを思う歴史への思いの深さを感じることができ、今後の活動に生かしていきたいと改めて考える1日となった。

もりおか歴史文化館ボランティア 大村喜一郎



聖寿寺館跡 発掘現場の様子



九戸城址見学の様子

◆インフォメーション

【刊行物(残部あり)紹介】

内容	誌名	頁数	価格	送料
図録	第5回企画展『あの日あの時の盛岡 一明治・大正・昭和の風景一』	32頁	500円	180円
図録	第13回企画展『あの日あの時の盛岡 一馬のいた風景一』	23頁	500円	180円
図録	第15回企画展『旅の枝折 一みちのく観光のみちしるべ一』	32頁	500円	215円
図録	第17回企画展『盛岡の指定文化財 一未来へのおくりもの一』	38頁	700円	215円
図録	第18回企画展『盛岡南部家の生き方・第1部 一乱世を切り抜けた南部家と盛岡のはじまり一』	64頁	1,000円	300円
図録	第19回企画展『南部鉄器 一時代を超えた鉄の美一』	64頁	1,000円	215円

※送料はゆうメール料金です

【刊行物のお求め方法】

- ・直接購入のご案内: もりおか歴史文化館のミュージアムショップで販売しています。
- ・郵送でのご購入: ①電話(019-681-2100)またはE-mail (info@morireki.jp)で事前にお求めの図書の在庫状況をご確認ください。
②希望する図書の冊数、および氏名・送付先・ご連絡先を記入いただき、代金を下記宛に現金書留でお送りください。郵送料は切手で、図書代金は現金でお願いいたします。
③代金到着後、図書を発送いたします。

もりおか歴史文化館
テーマ展

日を読む

南部絵暦

文字を使わず絵だけで表された「田山暦」と「南部絵暦」を紹介します。

会期 11/16 wed ~ 1/16 mon
会場 歴史常設展示室内
テーマ展示室

◆テーマ展「日を読む・南部絵暦」

会期:2016年11月16日(水)~2017年1月16日(月)
会場:2階歴史常設展示室・展示室V(テーマ展示室)

盛岡藩で作成された絵だけで表現された暦である「田山暦」と「盛岡絵暦」を中心にご紹介します。

【展示資料より問題】

下の絵暦は何を表しているでしょうか。正解は会場で!

【??】
1年で最も昼が短い日
ヒント
絵は「塔」と「琴柱(ことじ・琴の弦を支えて調律するもの)」です

ご利用案内

〈開館時間〉4月~10月 9:00~19:00(2階歴史常設展示室への入場は18:30まで)
11月~3月 9:00~18:00(2階歴史常設展示室への入場は17:30まで)
〈休館日〉毎月第3火曜日(祝・休日の場合は翌日) 12月31日~1月1日

〈入館料〉入館は無料です。

2階展示室のみ有料となり、右記の入場料が必要となります。

	個人	団体(20人以上)
小・中学生	100円	80円
高校生	200円	160円
一般	300円	240円

- 障がいをお持ちの方やその介護をなさる方(付添いを含めて2人まで)は、無料で入場できます。
- 盛岡市在住で65歳以上の方は、入場料が免除されますので、係員に各種保険証等をご提示ください。
- 盛岡市内の学校に就学している小・中学生の方は、入場料が免除されます。
- 企画展をご覧になる場合は、別途入場料が必要となる場合があります。

〈交通の案内〉

- 電車をご利用の場合 ○JR盛岡駅下車 徒歩20分
 - バスをご利用の場合 ○岩手県交通・岩手県北バス
 - お車をご利用の場合 ○盛岡IC・盛岡南ICから車で25分
- ※当館の敷地内に一般車両の駐車スペースはございません。隣接する「盛岡城跡公園地下駐車場」(有料)など近隣の駐車場をご利用ください。

所在地・交通のご案内



もりおか歴史文化館

〒020-0023 盛岡市内丸1番50号
Tel:019-681-2100 Fax:019-652-5296
<https://www.morireki.jp/>